

陳 情 文 書 表


(令和8年7月1日)

受理番号・受理年月日及び件名	陳情第212号(8.6.23) 市バス路線の継続と充実を求める陳情
陳情の要旨	1. 2027年4月実施の65系統、66系統、120系統の廃止・減便はやめ、存続させること。 2. 65系統は、しあわせの村まで延伸すること。
陳情者の住所及び氏名	神戸市北区 佐野 経子
送付委員会	都市交通委員会

2026年6月23日

神戸市議会議長 よこはた和幸 様

新日本婦人の会神戸北支部  
神戸市北区

佐野 経子 

## 市バス路線の継続と充実を求める陳情

星和台は高齢化が進んでおり、免許証を返納しバスしか移動手段のない人が多い地域です。また一方で世帯交代されたり 転入してこられたりした若い世代が徐々に増えてきており、通勤・通学でバスがなくてはならない交通手段になっています。

2027年4月から「しあわせの村エリア」の65系統、66系統、120系統、の市バス路線の大幅な減便・廃止が計画されていることに 多くの住民が不安を感じています。

神戸駅・西鈴駅間は市バスがなく阪急バスを利用していますが、便数が少なく帰宅時間帯は乗客が多いからかバス停で待ちくたびれるほど遅れて到着します。バスは混んでいて乗り残しが出ないかと不安になる程です。

ひよどり台止まりの65系統の市バスが減便になると混雑や遅れはもっとひどくなると予想されるので減便はしないでください。そして、65系統をひよどり台止まりではなくしあわせの村まで延伸してください。

名谷駅としあわせの村を結ぶ120系統が廃止ということで、困るの聲がたくさん上がっています。地下鉄を使って通勤・通学ができなくなれば、40分～1時間も移動時間が伸びるうえ、交通費も高くなり、時間的にも経済的にも負担が増します。

名谷駅前が整備され、買い物や図書館などの文化施設の利用も多くなったのに、名谷へ行く120系統が廃止されてしまうと家にこもる生活になると嘆く人もいます。

シルバーカレッジへ通う手段がなくなると、他の区からも心配の聲が上がっています。

生活に欠かせない路線です残してください。

最寄りの駅までが遠く電車を利用しにくい地域にとって、66系統は市の中心部まで乗り換えなしで短時間で行くことができるとても便利で貴重な路線です。

通勤、通学、通院、買い物、また、遠方に行く電車への乗り継ぎもスムーズにでき、全世代の住民の暮らしに必要不可欠のバス路線です。

減便されると利用しにくく移動が困難になるので、様々の活動の縮小を余儀なくされ、日常生活の維持も困難になります。

住民の生活向上にも街の活性化にもつながる市バス路線の充実こそ進めてください。

### 【陳情項目】

1. 2027年4月実施の65系統、66系統、120系統の廃止・減便はやめ、存続させること
2. 65系統は、しあわせの村まで延伸すること

## 市バス路線の継続と充実を求める陳情

陳情第 212号

交通局

陳 情 要 旨 等	
陳情者	神戸市北区 新日本婦人の会神戸北支部 佐野 経子
陳情要旨	<p>「市バス路線の継続と充実を求める陳情」について  <b>【陳情第 212 号】</b></p> <p>1. 2027 年 4 月実施の 65 系統、66 系統、120 系統の廃止・減便はやめ、存続させること。                  2. 65 系統は、しあわせの村まで延伸すること。</p>
陳 情 に 対 す る 神 戸 市 の 考 え 方	
<p>市バス事業は、阪神・淡路大震災等を経て 30 年間で利用者が半減していることや、少子高齢化や人口減少社会の到来に加え、昨今の原油高・物価高騰による諸経費の増加、さらには全国的な運転士の担い手不足など、事業経営を取り巻く環境は極めて厳しい状況にある。</p> <p>市バス事業は資金不足比率が 20%に迫る危機的な状況であり、これを超えると国の指導・管理下で経営再建を進める「経営健全化団体」となり、経営改善に向けた抜本的な対策、具体的には、運賃の大幅値上げ、強制的な路線廃止や大幅な減便など、急激な利用者負担の増加に踏み込まなければならなくなる可能性がある。</p> <p>市バス事業の収支状況については、運賃改定等の取組により単年度収支は一定程度改善しているものの、委託費の増大や燃料費高騰などの影響により依然として先行きは厳しく、安定した経営基盤の確立が最優先の課題となっている。</p> <p>一方で、現在の市バス事業が直面している最大の課題は、単なる収支の赤字にとどまらず、今後 10 年で概ね半数の運転士（約 100 名）が定年退職を迎えるという、将来的な人員確保が極めて厳しい見通しにあり、重複路線の整理や効率化など抜本的な見直しが不可避な状況である。</p> <p>将来にわたり市民の足を守り、持続可能な公共交通ネットワークを維持していくために、限られた経営資源（車両・運転士）を有効活用、本市の充実した鉄道網を最大限に活かした「最寄り鉄道駅への移動手段（フィーダー輸送）」への適正な配分を行うなどの見直しが不可避であることから、日々の 2 タッチデータ等による客観的な利用実態に基づき、需要と供給のバランスを図るダイヤ変更や、兵庫・長田エリア、東灘エリアの路線見直しを実施してきたところであり、今後、須磨エリア、しあわせの村・ひよどり台エリアを含めて路線見直しを予定している。</p> <p><b>1. しあわせの村・ひよどり台エリアの路線見直しについて</b></p> <p>しあわせの村・ひよどり台エリアの路線見直しについては、以下の状況を踏まえ、検討を実施した。なお、現在は地域の皆様に交通局の素案（3 案）をお示ししている段階であり、地域の皆様のご意見をお聞きした上で、本年秋ごろに見直し案を決定し、周知していく予定である。</p> <p><b>① 当該エリアの路線の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しあわせの村・ひよどり台エリアについては、市バスだけで 5 つの系統が運行し、複数の方面へアクセスしている状況であり、ご利用者が分散するため、それぞれの系統の収支が悪く、エリア全体で約 2.6 億円もの大きな赤字を計上している。</li> </ul> <p><b>② 路線見直しの考え方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該エリアには、しあわせの村において障がい者や高齢者などの福祉施設が集中しているという地域特性に配慮し、最寄り鉄道駅への移動手段（フィーダー輸送）は確実に確保し、いわゆる「交通空白地」を生じさせないことを基本としている。</li> <li>・その上で、重複路線の整理や効率化を図り、限られた経営資源（車両・運転士等）を適正に配分することで、持続可能な路線網への転換を図る。</li> </ul> <p><b>2. 陳情事項への考え方</b></p> <p>① 2027 年 4 月実施の 65 系統、66 系統、120 系統の廃止・減便はやめ、存続させること</p> <p>② 65 系統は、しあわせの村まで延伸すること</p>	

- ・市バス事業を取り巻く経営環境は極めて厳しい状況にあり、このままでは経営健全化団体となり、市民生活に多大な影響を及ぼしかねない重大な局面にある。
- ・前述のとおり、本年2月より、地域の実情に精通した地域団体や福祉施設等の関係者に対して交通局素案をお示しし、地域の特性や実際のバスご利用状況等についてお話を伺っている。その中で有益なご意見や情報を踏まえた「見直し案」については、実施の概ね半年前となる本年秋頃に決定し、周知していく予定であり、現時点では「見直し案」について検討を進めている段階であることから、陳情項目についてはご意見の一つとして承るものの、現時点で回答できる段階にない。
- ・なお、「見直し案」をお示ししたのちも、「より運行の効率を高める案」や「より多くのご利用が見込める案」、「見直しの作成過程では把握しきれなかった客観的な事実」などの有益なご意見・ご提案を伺うことができた場合には、地域の実情に即した有益な情報として確認・検討することとしている。

### 3. 今後の対応について

交通空白地を生じさせず、市民の足を確実に確保していくため、「見直し案」を提示すべく、いただいたご意見の精査を進めるとともに、引き続き、地域や施設の皆様のご理解が得られるよう、丁寧に説明を尽くしてまいります。